



川越市立大東西中学校 学校だより

きらめき

令和7年12月9日発行
第8号
川越市立大東西中学校
校長 小川 潤也

学校教育目標 『豊かな心を持ち、たくましい生徒 ～ 夢や希望をもつ生徒 ～ 』

○自ら考え、自ら学ぶ生徒 ○豊かな心を育む生徒 ○心身の健康に努める生徒

2学期、そして令和7年のまとめに向けて

校長 小川 潤也

12月に入り、2学期、そして令和7年も残りわずかとなりました。本校では、一時のインフルエンザ流行も落ち着きを見せておりますが、引き続き、健康管理に十分気を付け、安心、安全な学校生活が送れるように努めております。

さて、2学期最後の全校朝会では、この時期に毎年話題となる「今年の漢字」を題材にし、生徒一人ひとりが一年をふり返る時間を持つことを目的に話をしました。

(12月学校朝会 校長の話より)

12月に入り、今年も残りわずかになってきました。学校に来る日も、あと16日です。その中には、短縮授業も含まれます。毎年この時期になると話題になるのが、テレビでも見たことがある人もいますが、「今年の漢字」です。

京都の清水寺で住職さんが大きな太い筆で漢字一字を書いている様子を見ると、「今年も終わりに近づいている」とつくづく思います。主催は、日本漢字能力検定で、その年の出来事や、人々の気持ちをたった「一文字」に込める、日本独自の文化のひとつです。

今日はこの「今年の漢字」を入りに、みなさんに“自分自身の一年を静かに振り返る時間”を持ってもらいたいと思って、この話をします。一年を振り返るとき、「楽しかった」「大変だった」「あつという間だった」そんな言葉で終わらせてしまうこともできます。でも、あえて“一文字”にしてみると、その裏側にある自分の気持ちや、乗り越えたこと、成長したことが、自然と浮かび上がってきます。

例えば、去年(令和6年)の“今年の漢字”です。ベスト5をみていきます。

5位「新」 新紙幣の発行や新制度の導入など、“新しい変化”を実感する出来事が多かった年でした。

4位「震」 能登半島地震などの自然災害、社会の揺らぎなど、多くの人が「揺れ」や不安を感じた一年でした。

3位「翔」 パリ五輪での活躍など、スポーツや文化における“飛躍・躍進”が印象的だった年です。

2位「災」 地震・豪雨・猛暑など、自然災害が多く、防災への意識が高まった年でした。

1位「金」 五輪の金メダル、新紙幣、物価高や政治をめぐる問題など、“金(きん/かね)”に関する話題が多く、国民の関心が集まった一年だったことから選ばれました。

ここで、私自身の「今年の漢字」を紹介したいと思います。

1つ目は、「再」です。今年、私は“再び”中学校で働くことになりました。また、今まで縁のあった川越で働くことができています。戻ってきて、また川越で、生徒のみなさんと向き合えることは、私にとって特別な思いがあります。

2つ目は「新」です。新しい環境、新しい出会い、新しい挑戦。心を新たにしてい取り組んだ一年でした。

3つ目は「健」です。忙しい毎日の中で、“体を大切にすること”の重要性を強く感じた一年でもありました。

では、今年の自分を漢字一文字で表すとしたらどんな漢字が浮かびますか？心の中で思い浮かべてみてください。できるようになったこと、なかなかうまくいかなかったこと、人に助けてもらった瞬間、逆に自分が人を支えた瞬間、あきらめずに続けたこと、小さくても確かな成長。どんな漢字でも大丈夫です。正解はありません。319名いたら、319個の漢字があると思います。

そして、その漢字一文字を通して、「自分の一年を振り返る」ことができれば、それだけで十分価値があります。そして、その積み重ねを、一文字にして振り返ることで、3学期にも、そして来年にも必ずつながっていきます。そして冬休みまでの残りの日々を、大切に過ごしてください。